

# 星の動きの理解と星座早見の使い方

竹中 萌美、近藤 秀作（天文担当）

## 1) 星空の歩き方

季節の星座とは、夜9時ごろ（空を見上げやすい時間）に南～頭の真上近くで空に見える星座のことです。

春は北斗七星、夏は夏の大三角、秋は秋の四辺形、冬は冬の大三角を出発点にすると、季節の星をたどることができます。北極星のある北の空は、カシオペヤ座や北斗七星が、少しずつ角度を変えていく様子を観察できます。

**富山で見える1等星より明るい恒星は、夏4個、秋1個、冬7個(+1個) 春3個の計15個(+1個)**

明るい星を見つけて、それらを頼りに星座早見盤などに載っている暗い星を辿ってみると、星座の形が分かります。星座が分かるとぐっと星空が身近に感じられて空を見るのが楽しくなるはずです。

夏：「夏の大三角」の星【ベガ・アルタイル・デネブ】と、さそり座の赤い星の【アンタレス】

秋：「秋の四辺形」の星を南の方へと辿って見つける、みなみのうお座の【フォーマルハウト】

冬：「冬の大三角」の星【ベテルギウス・シリウス・プロキオン】と、オリオン座の【リゲル】

おうし座の【アルデバラン】、ふたご座の【ポルクス】、ぎょしゃ座の【カペラ】

(+富山からはなかなか見えないりゅうこつ座の【カノープス】)

春：裏返しの？(はてなマーク)のような星の並びがあるしし座の【レグルス】と、北斗七星の持ち手の星を伸ばすと見つかるうしかい座の【アークトゥルス】、おとめ座の【スピカ】

## 惑星はその時限定！

惑星は年によって見えるところが変わります。また、金星や火星などは、地球のすぐ内側と外側を回っているため、毎日少しずつ見える場所が変わっていきます。恒星との見分け方は、じっと光っているかまたたいているかです。恒星はキラキラとまたたきますが、惑星はじっと光っています。惑星が太陽の光を反射していて、さらに地球との距離が比較的近いことが関係しています。

## 2) 星座早見—星空の地図—

日付と時間を指定し“窓”のところに現れる星図を見ると、星座がどの方角のどの高さにあるかを調べることができます。“窓”のへりが地平線で、「天頂」と書かれているところが頭の真上です。

## 使い方手順

- ① 見たい日付と時刻を決め、月日と時刻をあわせませす。
- ② 天頂から探したい星座まで指でなぞり、そのまま“窓”のへりまで伸ばし、書かれている方角を知ります。その方角が、探したい星座が見られる方角となります。
- ③ 目的の方角に向かって立ち、星座早見はその方角が書かれている辺を下にして持ちます。「天頂」の字より下側に描いてある星座がその方角に広がっています。
- ④ 星座早見を元に星座を探します。探したい星座が「天頂」の字に近いほど頭の真上近くにあります。

## 補足

- ・昼間に出ている星も正しく再現しています。
- ・窓のある円盤を固定して、星座の書いてある円盤を回すと、星の日周運動を再現できます。北極星を中心に星が回っていく様子がわかります。

